



安全・安心をお届けいたします

グリーンプロジェクト情報 第3号

きらきら Eyeランド
JA庄内みどり

発行：庄内みどり農業協同組合
協力：酒田農業技術普及課

初期生育確保の鍵は健苗育成！！ ～きめ細かな温度管理の徹底を～

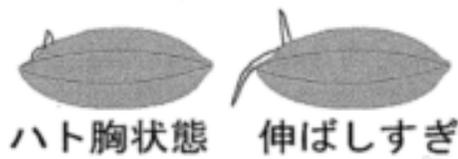
仙台管区気象台の1か月予報（4月3日発表）では、4月の天候は数日の周期で変わりますが、向こう1か月間の気温は平年より高いと予想されています。**特に播種直後のマルチ下温度には細心の注意を払い、高温障害には十分注意しましょう。**

催芽の仕上がりは播種後の出芽揃いに大きく影響します。催芽後半からは芽切れの程度を品種ごと袋の中までこまめに確認し、必ず**90%程度の芽切れ**を確認して播種作業に入りましょう。令和7年の稲作を左右する重要な苗づくりとなりますので、基本技術を励行し、健苗育成に努めましょう。

技、其の一 上手な催芽は健苗づくりの基本です

※芽切れの程度を**品種ごと袋の中までこまめに確認しながら**確実な催芽を行いましょ。う。

- ① 催芽温度は30～32℃とします。催芽温度が低いと「ばか苗病」の発生リスクが高まります。
- ② 発芽を促進するため催芽時に“活水”（100倍液）の使用を推奨します。
- ③ 催芽の目安は、芽の長さ1mm程度（ハト胸状態）です。**90%程度の芽切れ**を確認してから播種作業に入りましょう。



ばか苗病の対策

- 稲ワラや籾殻を育苗施設周辺に放置しないで下さい。（腐熟が不十分な堆肥を含む。）
- **マルチ除去は適期（目安：草丈2.5cm）に行い、長くかけすぎないようにしましょう。**
- 各生育ステージの最適温度を順守し、高温管理とならないようにして下さい。

技、其の二 適正な播種・育苗基準と育苗マットの注意点

下表を順守して健苗づくりをし、適期移植に努めましょう。

1箱当たりの播種・育苗基準

	目標葉齢	育苗日数	乾燥籾重	催芽籾重	催芽容量
稚苗	2.2～2.3葉	22～25日	150～170g	180～200g	1.6～1.8合

※育苗マット使用上の注意点

- ・育苗マットの場合は、播種機の灌水パイプを1～2本増設し、目安として**1箱あたり2畝**が灌水されることを事前に確認してから播種しましょう。
- ・覆土は**1.2～1.4kg**を目安として、厚くなりすぎないようにして下さい。また、通気性、透水性の良い粒子が粗めのものをご使用下さい。
- ・緑化～硬化初期までは、灌水は控えめにして下さい。
- ・昼夜の温度差が大きいと障害が発生しやすくなるので日中の高温に注意して下さい。また、カビ対策として播種後14日以内にダコレート水和剤を灌注しましょう。
※特別栽培米はあらかじめ決められた薬剤しか使用できません。

技、其の三 出芽時の最適温度は32℃を厳守

出芽温度が32℃を超えると高温障害が起きやすいだけでなく、**徒長苗・ばか苗病発生の原因**となり、苗の仕上がりに影響します。また、特に屋根ビニールを張り替えた場合、温度が上がりやすいため出芽時の温度管理には細心の注意を払いましょう。

※適切な温度管理のために**必ず温度計を床土に挿して測りましょう。**

○出芽不良の場合

出芽不良の場合は、“活水”の50倍液を箱当たり100～200ml施用して下さい。3日おきに2～3回が目安です。（特別栽培米も使用可能です。）

○被覆資材の種類と取り扱いに注意

『遮光資材（ダイオシート）』

マルチ下の高温に注意し、朝夕の日差しの強いときや、日中高温の時間帯はハウス全体を被覆し、高温障害を防止しましょう。

『シルバー被覆資材（ふあふあSL-60等）』

播種直後の育苗開始時期に高温障害の発生が多いので、下記を参考に高温対策を実施しましょう。

- ① ホットンカバーやラブシートを併用し、マルチの上にベタがけする。
- ② マルチ（無孔ポリ）の代替えとして、有孔ポリを使用する。（乾燥に注意）
- ③ **高温になりそうな好天日は、早めの換気操作でハウス内の温度上昇を防ぎましょう。**
それでも、温度が下がりそうにない場合は一時的にマルチを取りましょう。

技、其の四 地力・品種に合わせた本田基肥設計

地力の高い土壌では、施肥にそれほど依存しなくても、十分な生育量を確保できます。良食味米生産のために、地力・品種に合わせた適正な基肥量を施用しましょう。

地力別品種別基肥量の目安

（窒素成分：kg/10a）

品 種	地 力			
	高い （粘土割合 50.0%以上）	← 地 力 →	低い （粘土割合 12.5～25.0%）	
はえぬき・雪若丸	3.5	4.0	5.0	6.0
ひとめぼれ	3.0	3.5	4.0	5.0
つや姫	3.0	3.0	3.5	4.0

○堆肥を毎年散布している圃場では、基肥窒素量を基準より0.5～1.0kg/10a程度減肥して対応しましょう。特に「つや姫」圃場では注意が必要です。

○長年、大豆を作付した圃場からの復田初年目は基肥窒素をゼロとします。

ただし、生育量を見ながら追肥で対応しましょう。

○耕起時はスピードを落として、**15cmの耕深**を確認しながら作業しましょう。

転圧ローラーの使用について

○目的

苗の根上がり、覆土の持ち上りを防止します。覆土落としと覆土直しが省略できます。また、苗にストレスをかけることにより根張りを良くし、茎を太くする効果が期待されます。

○使用方法

目安としてマルチの上から播種後2日後と、4日後に1往復させます。それ以降覆土の持ち上がりが見られる場合はもう1回転圧を行います。

酒田農業技術普及課 公式LINE

酒田飽海米づくり情報

リアルタイムに発信します！

- ・『米づくり情報』等の栽培技術情報
- ・生育ステージ毎の栽培管理
- ・刈取時期の登熟状況（刈取目安） など



QRコード読み



ここをクリック

友達登録
お願いします！！

特別栽培米の方々へ

特別栽培米は計画した資材を計画通りに使用することが求められます。

使用する際は資材名を確認し、定められた使用量・使用時期を必ず守りましょう。尚、栽培基準（ガイドライン）以外の資材を使用した場合、一般米扱いとなります。安易に自己判断することなく、最寄りの営農課へご確認願います。

播種・育苗期間中における注意事項

育苗期間中、誰が見ても混乱が生じないように特別栽培米である目印や、品種名等が分かるよう育苗箱・置き床などに表示するなど工夫しましょう。

・注意 **本田畦畔及び周辺に除草剤は使用できません。**

（田植え前の散布でも使用できません）

隣接農家と相互理解をはかりましょう。

○トラクター等による農作業事故を防ぎましょう！

農作業事故が最も多い季節です！安全第一でお願いします。

4/1～6/10は「春季農作業事故防止運動強化期間」です。

○農薬は適正に使用しましょう！

①適用作物 ②使用量・希釈倍率 ③使用時期 ④総使用回数 ①～④を必ず守りましょう。

○栽培履歴は必ず記帳しましょう！

○**トラクターでの作業終了後は、圃場で土・泥を落としてから公道を走行するようにしましょう。**（毎年JAに苦情が寄せられています。）また、公道を走行する際には法令順守のもと必要な表示・標識の設置を行ないましょう。

☆育苗ハウスで野菜を作付される方へ！

ポジティブリスト制度施行後に、育苗箱からこぼれた箱施用薬剤や薬剤処理後の漏水で農薬が土壌に残り、後作の野菜が吸収し成分が検出された事例があります。

箱施用薬剤は、ハウス内での施用は避け、田植え前に圃場で散布しましょう。また、箱施用剤を床土混和した場合も、後作での野菜の栽培は行わないでください。詳しくは、JA園芸課又は、各園芸センターへお問い合わせください。

技、其の五 直播栽培のポイント

≪鉄コーティング湛水直播栽培≫ **播種時期の目安：4月下旬～5月上旬**

○播種時、播種後の水管理と適正苗立ち数の確保

代かき後2～3日間程度圃場を落ち着かせてから播種しましょう。播種時の目安は、ゴルフボールを1mの高さから落として半分埋まる程度の固さに調整しましょう。

播種同時または播種直後に除草剤を散布した場合は、**除草剤の効果を安定させるため7日間湛水しましょう。**その後圃場の乾き過ぎに注意しながら、**5日程度落水し、出芽を促進させましょう。**

適正苗立ち数 80～100本/m²の確保に努めましょう。



鉄コーティング湛水直播栽培

≪乾田V溝直播栽培≫ **播種時期の目安：4月上旬～下旬**

播種の遅れが発芽の遅れとなり、生育不足につながります。播種作業は4月中に完了させましょう。**極端な乾燥状態が続く場合は一時的にフラッシング（灌水）を行い、早期の苗立ち確保に努めましょう。**



不耕起V溝直播栽培

○除草剤の散布

①出芽前除草剤（ラウンドアップマックスロード等）は、周辺圃場の代かき前までに散布しましょう。

※飼料用米での出芽前除草剤は『草枯らしMIC』です。

②ヒエ5葉期以前であることを確認し、圃場に入水する5日前頃、イネの葉齢で1.5葉期（5月下旬～6月上旬）を目安にクリンチャーバスME液剤等を散布します。

直播栽培で使用できる除草剤は限られています。使用時期・使用方法・使用剤型等を確認して適切に使用し、効果的な除草に努めましょう。また、隣接地や周辺作物へ飛散しないよう十分留意して下さい。

☆直播栽培暦☆

水稻直播の栽培暦を更新しました。鉄コーティング直播と乾田V溝直播の2種類です。生育ステージごとの留意点を記載しておりますので、ご不明な点は各営農課の指導員にお問合せ下さい。また、JA庄内みどりホームページにも掲載しておりますのでご覧下さい。

農薬の飛散（ドリフト）防止対策

- 風の弱いときに風向きに注意して散布
- 散布の距離や方向に注意
- 適切なノズルを用いて適正な圧力で散布
- 適正な散布量で散布

★次号の発行は4月18日です！